



にしく市民活動支援センター にしとも広場

2022 年度 事業報告

管理運営：認定特定非営利活動法人市民セクターよこはま

2022 年度運営方針と成果

西区には、活動している人材・団体が大変多くおられ、コロナ禍の影響が残る今だからこそ、自分の活動をもっと地域で活かしたい、そのために地域とつながりたいという思いが寄せられます。そこで今年度は、「より地域に密着した、自分事となるつながりづくり」をテーマとし、以下を主な柱に、様々なつながりが生まれるよう、積極的に働きかけ事業を進めました。

●地域課題を見える化し、課題に向き合うための様々な連携を考える場をつくりました

新型コロナウイルス感染症を機に顕在化してきた様々な社会課題や地域課題がありましたが、最近の気候変動から災害も身近な課題となっていました。災害時には課題が一気に顕在化と言われていますが、実は、復旧・復興期にも引続き様々な課題があること、その課題に向き合うには地域の力が必要で、そのためにはやはりつながりが大事であることの理解はまだ薄いと感じました。そこで、中長期の課題に対し、共に向かっていくためのつながり考える機会として、まずは活動団体向けに、そして、西区内施設向けに考える場を設け、一人ひとりが自分事として連携の輪に入ることを促しました。

●より良いコミュニケーションの生まれるハブを目指し、情報発信全体について見直しを行いました

当センターは、つながりのハブ、情報のハブでありたいと考えています。そのためには、今の時代にあった適切な情報の受発信が必要となるため、情報発信全体の見直しを行いました。当センターを知らない方も含め、日ごろ使用している情報媒体やセンターからの受信媒体の希望などについて調査を行い、センターのもつ情報発信のあり方を検討しました。

●中間支援的活動者・団体と共に、地域で活躍する人材の創出を促していきます

ある分野の活動を続けることで知識や経験が培われ、ネットワークができ、他の団体や人を支える力を発揮する中間支援的な人・団体がいます。昨年度、そうした音楽ボランティア団体の「地域で活躍する人材を育成したい」という思いを受け、ボランティア育成講座を支援・実施しました。今年度も同様の思いをもつ方がおり、ともに年度途中まで企画を進めていましたが、残念ながら生活環境の変化で実現することができませんでした。今後も、こうした思いの方を発掘し、実現を支援していきます。

事業ごとの報告

1. 相談事業

市民活動・生涯学習に係る相談を軸に、誠実に一人ひとりと向き合い、その方の真のニーズを引き出す力、課題に向き合う力を日々の実践や研修で高め、職員の相談力向上を図りました。

また、当センターには、様々な背景をお持ちの方が来られることから、必要に応じ、地域の施設や関係機関と連携し、ニーズに即した情報の提供やコーディネートを実施しました。

●相談実績 338 件

●相談例

- ・引っ越してきたばかりなので、西区の情報を知りたい。 ・パソコン操作の初歩を教えてくださいはないか。
- ・日本語の教室を探している。 ・何か参加できるものはないか。 ・イベントをするので出演者を探している。
- ・定年になったのでボランティア活動をしたい。 ・自分の特技を生かして何かしたい。
- ・NPO 法人の立ち上げを検討している。助成金など知りたい。

1) 相談機能の充実

- ・活動団体、地域、個人からの様々な相談は、相談時間を十分に確保し、「関わりカード」に記載すると共に職員間で共有・検討し、継続的に対応しました。
- ・必要に応じて、関係機関や施設・団体等と連携を取りながら、適切な支援を心がけました。
- ・独自のデータベースを作成し、情報の蓄積、共有に役立てました。

2) 相談力の向上のための取組の実施

- ・職員全員で行う会議（月 2 回）において、直近の相談対応において、気になる事例をピックアップし情報を共有しました。また、内容について検討し、今後のよりよい対応につなげました。
- ・活動団体、地域住民の方と一緒に学ぶ研修を開催し、共に学びながら基礎知識を高め、スキルアップにつながる機会をつくりました。今年度は「傾聴」「救急救命」「発達障害」を取り上げた研修としました。
- ・イベントや講座等の実施の際に、参加者の方のニーズ等を聞き、課題について「共に学び続けたい」想いがある場合は、グループ化や定例化を促進するよう、働きかけや伴走、相談を行いました。

【知っておきたいシリーズ】

時間・場所・参加者	テーマ・内容
11/18（金） 13:00－15:00 @にしとも広場 受講者数：9 名	『傾聴とオープンダイアログの基礎を学ぶ』 講師：NPO 法人アーモンドコミュニティネットワーク 理事長 水谷裕子さん こころを聴く「傾聴」と「ダイアログ」の実践について、ありのままのその人の気持ちをしっかりと聴く、相手が主役のコミュニケーションスキルの基礎を中心に学びました。

1/24（火） 13:00－15:00 @にしとも広場 受講者数：9名	『いざという時役立つ救急救命』 講師：特定非営利法人 JAEA 河波弘晃さん 感染予防を行いながら、基本的な心肺蘇生法や、AED（自動体外式除細動器）の操作を学び、感染予防の基礎、緊急時の対応について実例を通し具体的に学びました。
2/27（金） 13:00－15:00 @西区役所 3AB 会議室 受講者数：17名	『発達障害について学ぶ』 子どもの発達障害について話をしよう 講師：横浜市中部地域療育センター 地域支援課長 佐藤克也さん 誰にでもある凸凹や発達について、その特性や関りの工夫などについて学び、地域でできること、困り事のサポートなどを一緒に考えました。



〈 傾聴講座 〉



〈 救急救命 〉



2. 情報提供・発信事業

当センターの持つ情報の発信や当センターの周知のため、情報紙、ホームページ、フェイスブック、広報よこはま等外部メディアを活用しました。加えて展示スペース（壁面や小箱スペース）も有効に使い、活動者の広報や成果物のアピールの場とすることができました。今は何を展示しているかと楽しみに来館される方もおり、継続的に展示していたことが効果を高めていたと思われます。様々なツールを適切に使うことで、届いてほしい層に届くと考えます。今年度、利用媒体についての調査を、来年度の本事業に生かしていきます。

1) 情報紙『にしとも広場』（カラー冊子・全 12P）の発行

- 今年度は、災害時の復旧・復興期のつながりをテーマに、ページ数を増やし、特集号としました。



第 20 号：「いざというとき、このつながりが力になる」

（2023 年 3 月発行）

西区で大きな災害が起きたそのあと、復旧・復興時の課題は何か、自分たちは何ができるのか、どんなつながりが必要か。

活動者・団体の思いなども掲載し、自分事としてつながりを考えて頂く紙面としました。

- 前号からの連動企画で、取材者同士のつながりづくりや活動紹介の場をつくりました。

にしとも広場 19 号連動企画「きて・みて・やって！5 月の 5 人のアート広場」

～にしとも広場の壁に鯉のぼりを泳がせよう！4 月 23 日（土）～5 月 5 日（木）～

情報紙に登場したアート作家 5 人が鯉のぼりの骨組みを作り、来館された方が思い思いのうろこを貼って仕上げる参加型の企画となりました。また、企画を通して作家同士の交流が生まれ、作家同士がコラボした講座が生まれました。



日付	イベント名	参加人数
4/29	絵具と葉っぱで、葉っぱのトートバック	12 名
4/30	葉っぱと粘土で飾るオリジナルフレーム	9 名
5/5	北欧モバイル×ドライフラワー ヒンメリ飾り	7 名
5/7	オリジナルタンブラー & フラワーアレンジメント	21 名

2) 情報紙『にしとも広場 mini』（カラー-A4 版）の発行

- 年 4 回発行し、イベント情報や活動事例、新規登録団体紹介等を掲載しました。
- 写真やイラストなどを効果的に使用し、分かりやすく、インパクトのある紙面づくりに努めました。

4～6 月

7～9 月

10～12 月

1～3 月



3) ホームページでの情報発信

- ・ 地域やにしとも広場で開催されるイベント情報やボランティア募集情報など、タイムリーな情報発信を行いました。
- ・ 『にしとも広場 mini』など紙媒体でも、QRコードを掲載してホームページの存在をアピールし、フェイスブックと連動させるなど、ホームページへの誘導を行いました。また、イベントページについては、気軽に申し込みいただけるよう、ホームページの申し込みフォームを毎回設定しました。



4) フェイスブックでの情報発信

- ・ よりタイムリーに、幅広い層への情報発信を行い、集客につなげました。
- フェイスブックページへの「いいね」数：755 件（2023/3 末時点）

5) 展示スペースの活用

＜小箱ギャラリーコーナー、こばこ図書＞

- ・ 地域人材ボランティアや活動団体の方に、活動をひろげる場としての活用を呼びかけました。
- ・ 横浜市中心図書館と連携し、季節やイベントに合わせたテーマについて司書が選定した本を配架し、学びを広げる工夫をしました。

＜中央図書館連携 こばこ図書＞

配架月	テーマ	関連行事・事業等
4 月	子ども	子どもの日、5 人のアート展
9 月	認知症	世界アルツハイマーデー、認知症カフェでの活用
12 月	季節行事	学習支援（外国につながる子どもたちへの紹介）
3 月	横浜の歴史	鉄道 150 周年



＜活動作品展示 小箱ギャラリー＞



＜壁面ギャラリーコーナー＞

- ・ 登録団体の活動発表の場として活用しました。活動の写真展を開催し周知につながりました。
- ・ 季節にあわせた飾りを展示しました。七夕の短冊は、講座参加者、来館者も自由に参加する展示となりました。また、外国につながる子どもたちに日本の文化を知ってもらう機会にもなりました。

〈活動団体主催の写真展〉



〈七夕かざり〉



◆にしとも広場アート展（11/1～11/29）

- ・ 登録団体によびかけたところ 10 組が参加しました。
出展作品：水墨画、日本画、油絵、チョークアート、おりがみ、トールペイント、フラワーリース等
- ・ 来館者にはアンケートをお願いし、93 名の方にご回答いただきました。アンケート回答者には、アート展出品者からの寄付作品をくじ引きでお渡しし、活動の周知を行いました。



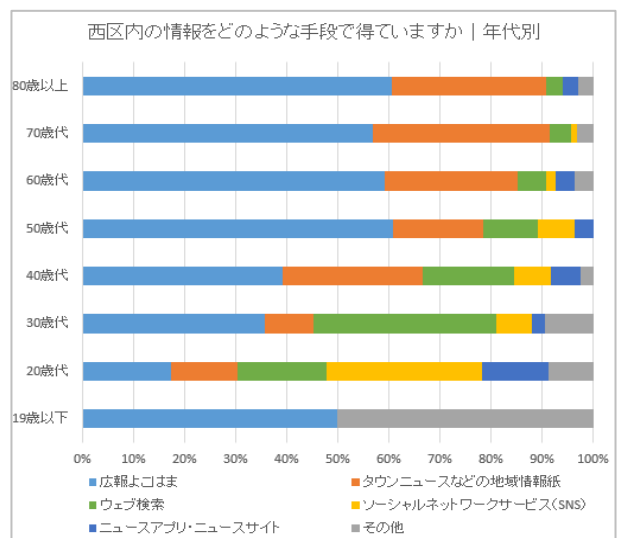
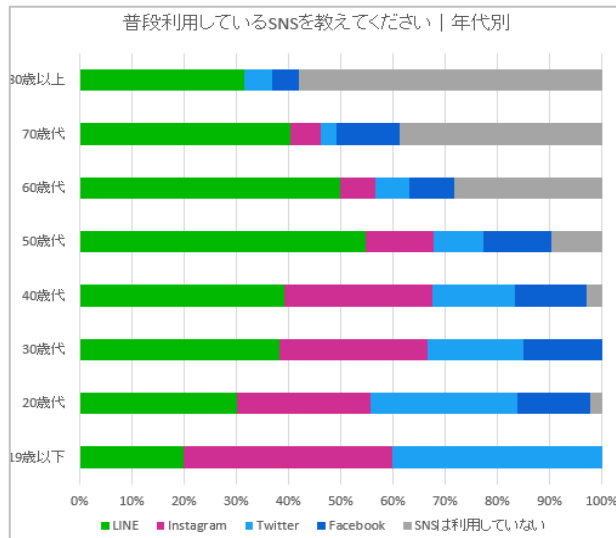
6) にしともカレンダー

当センターで開催されるイベントや講座を毎月のカレンダーとして分かりやすくまとめました。館内掲示のほか、ホームページで掲載、紙媒体にして配付しました。見やすいと好評です。

[illegible]

7) 情報発信媒体の利用調査

- ・ 利用者、活動団体、活動者、関連施設など、センターの情報発信が、どのようなツールであったらよいか、公式LINEも含め、新規ツールとして何を望むかなど、アンケート調査をしました。
- ・ 結果を分析し、情報提供・発信事業の全体像を明確にしました。



(グラフの詳細は、『にしとも広場第20号』に掲載)

8) 他機関・施設による外部メディアの利用

- ・ 記者からの取材先紹介依頼への対応や、登録団体の自主企画などの紹介を行いました。

掲載いただいた外部メディア等

- 広報よこはま ● タウンニュース・YCV・はまかせ新聞 ● 横浜市協働推進センターメルマガ
- 西区施設へのチラシの持参、配架依頼

3. 活動団体のマネジメント支援および、ネットワーク支援事業

地域のイベント等で特技・得意を発揮する「人材ボランティア」は、コロナ禍になって以来、地域の活動が停滞して活動の場を失っていました。残念ながら活動をやめた方もおられますが、何かしたいという方も増え、今年度の新規登録数はコロナ前に戻つつあります。地域の活動もようやく復活の兆しが見えてきてコーディネート数も上がってきましたが、まだ十分ではありません。来年度は、今年度更新し新しくなった登録冊子を活用し、本事業の一層の周知をしていきます。

登録団体については、イベントのチラシやメンバー募集のチラシの配架依頼、また、備品の貸出し依頼などが増えてきており、活動を再開している様子がうかがえました。ただしセンター利用が MTG スペース利用などハード面での活用が多いので、団体運営の相談などソフト面での活用を周知していく必要があると考えています。

活動団体・活動者の交流・つながりのきっかけづくりとしての交流会は、今年度、ようやく対面で実施することができました。新たな出会いがあり、活動の幅を広げるきっかけとなるよう、テーマや実施内容を企画しました。

<1> 地域人材ボランティア事業『西区街の名人・達人』

1) 新規登録の促進

- ・ 披露の場や情報紙等を通じて、地域人材ボランティアとしての活動の場があることの周知や、活動に興味をもつ方が増えるよう促しました。
- ・ 特技を生かしたいなど、相談者の声を丁寧に拾い、本人の想いを形にし、新規登録に繋がるよう支援しました。
- ・ 新規登録された方には、にしとも広場 mini 上での紹介や、「来て・見て・聞いての日」で披露する機会をつくるなど、活動の場が広がるよう支援しました。

※ 当センターの登録人材であることが信用となり、他所での活動がスムーズとの声もありました。

◇西区街の名人・達人登録数 136 件（前年度 151 件）

今年度の新規登録数 19 件（前年度 10 件）

2) 『西区街の名人・達人』のコーディネート

・ 昨年に比べ、徐々に地域の活動が戻ってきました。コーディネートの相談があった際は、相手のニーズに加え、実施環境（場所・施設）についても丁寧なヒアリングをし、安心して活動ができるよう心掛けました。

●コーディネート例

- ・マンションでのロビーコンサートや交流サロン
- ・シニアクラブでの音楽のつどい
- ・中学校のふれあい交流会
- ・学童でのダンス教室
- ・小学校での廃材を利用したちぎり絵教室
- ・ケアプラザでの親子対象コンサート
- ・自治会でのふれあい寄席
- ・自治会お月見会での三味線演奏 など

●コーディネート数 39 件（前年度 29 件）

3) 『西区街の名人・達人』の活動披露の場づくり

・「来て・見て・聞いている日」

感染拡大防止運営基準を反映し、利用定員は 15 名を上限としました。

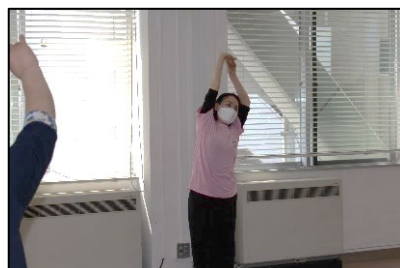
オンライン開催が難しいものも多く、参加希望が多い企画については、講師と相談の上、複数回の開催や別会場を準備するなど、参加の機会を増やし対応しました。

・ 音楽関係については「音楽の日」や「来て・見て・聞いている日」の出張コンサートなど、活動を披露する場を計画していましたが、コロナ禍で歌うことや演奏が難しく、今年度は開催できませんでした。

日付	イベント名	人数
4/23	はじめての気功体操	10 名
5/27	親子で楽しむお話し会	6 名
6/24	声とギターで物語を楽しむ会	7 名
7/18	こども科学捜査①	37 名
7/18	こども科学捜査②	37 名
8/20	夏休みチョークアート体験①	6 名
8/20	夏休みチョークアート体験②	6 名
9/20	スマホの使い方	8 名

日付	イベント名	人数
10/15	横浜の郷土史落語と古典落語を楽しむ	10 名
11/29	干支の年賀状～卯～①	6 名
12/3	干支の年賀状～卯～②	11 名
12/18	クリスマス・スワッグ	19 名
12/18	クリスマス・リース	15 名
1/8	常磐津節三味線	22 名
2/24	筆文字アート	17 名
3/21	親子マジック教室	15 名

参加者計：232 名



はじめての気功体操



声とギターで物語を楽しむ会



チョークアート体験



横浜の郷土史落語



こども科学捜査



江戸の音色

4) 『西区街の名人・達人』のホームページ掲載情報の更新

- ・ 新規で登録があった時は、速やかにホームページの検索データベースに追加するとともに、ホームページでも紹介しました。

5) 『西区街の名人・達人』の登録更新、ガイドブックの作成と活用

- ・ 次年度（2023 年度 4 月）の登録更新（3 年毎）に向けて、更新意向の確認を行いました。
更新意向発送数 134 人 ➡ 更新辞退数 34 人
(辞退理由：年齢、体調、転居、活動停止、活動内容の統合 など)
- ・ 登録更新に際しては、活動状況や課題について、まずは（感染防止の観点から）書面で聞き取り、状況に応じ電話で更に聞き取るなどし、活動の継続や活性化につながる方法をともに考えました。
- ・ ガイドブックの作成に関しては、地域の施設にデザイン・製本を依頼し、分野ごとに見出しを付けるなど、より見やすく活用しやすい冊子としました。
- ・ PTA や町内会などの新たな役員の方には、説明と共にガイドブックを配布し、登録者の活動について周知を行いました。
- ・ 各小学校へ配布したガイドブックを通じて、小学校総合学での講師依頼があり、地域振興課と連携し、コーディネートを行いました。

6) 『写真ボランティア養成講座』を企画

地域の行事などを撮影できるボランティアを養成したいという人材ボランティア登録のカメラマンの思いを受け、「写真ボランティア養成講座」を企画しました。準備を進める中で講師の転居等があり、中止となりました。

7) 『音楽ボランティア養成講座』演奏会の伴走支援

5/14 に平沼集会所にて開催された、昨年度の『音楽ボランティア養成講座』の伴走支援の一つとして、平沼集会所で「音楽ボランティアフェスティバル」を開催しました（5/14）。実施にあたっては、主催団体とともに、企画から招待者の選出、広報、当日の演奏会設営補助など、伴走支援を行いました。

<2> 登録団体

1) 登録の呼びかけと活動支援

- ・ 活動自粛が続く中、団体活動の現状や必要なニーズを把握し、今後の活動が、より潤滑で広がりをもつよう支援を心掛けました。
- ・ 掲示板にお知らせ欄を作成し、登録している団体のイベントを掲示、来館の方へ紹介し周知を行いました。
- ・ にしとも広場を会場として定期的に行う自主企画の活動の一覧や、月ごとの活動日が一目でわかるようカレンダー形式で紙面を作成するなどの工夫をしました。
- ・ その結果、今年度の新規登録団体数は 11 件となりました。（前年度 14 件）

◇団体登録数 194 件（前年度 184 件）

今年度の新規登録数 11 件、登録削除数 1 件

2) 団体のステップアップにつながる講座の開催

- ・ 団体交流会として「登録団体」「西区街の名人・達人」「西区地域づくり大学校修了生」によびかけ、ともに学ぶ場をつくりました。（P.10 参照）

3) グループボックス（ロッカー）の登録更新

- ・ 次年度（2023 年 4 月）の登録更新（2 年毎）に向けて、更新意向の確認・抽選を実施しました。
結果、ボックス 25 個すべてが利用されることとなりました。

4) 登録団体への活動支援

- ・ 活動に関する相談や、会員募集の方法など一緒に考え活動の支援を行いました。
- ・ 「西区グループ・団体ガイドブック」を活用し、活動団体の周知、活動の場を希望する方への紹介を行いました。
- ・ ホームページに更新した登録情報を掲示し、活動紹介や周知に活用しました。

5) 西区街の名人・達人&登録団体、および地域活動者の交流会

- ・ 「西区グループ・登録団体」、「西区街の名人・達人」、「西区地域づくり大学校の修了生」と活動者に広くよびかけ、交流をはかるとともに、パワーアップにつながる活動のヒントや工夫を共有する場とし、12 月と 3 月の 2 回実施しました。

時間・場所・参加者	テーマ・内容
12/3（土） 9:30-12:00 @にしとも広場 参加者：会場参加 13 名 オンライン参加 5 名 合計 18 名	「いつやってくるか分からない災害 何が困るの？何ができるの？たっぷり話をしながら考えよう！」 コーディネーター：災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ 伊藤 朋子さん、手塚 明美さん、藤枝 香織さん ★講座の内容・参加者の感想などを情報紙 20 号に掲載しました

2023 年 3/19 (日) 14:00 – 16:30 @西区役所 3 AB 会議室 参加者:27 名	「団体大交流会 顔を合わせて語り合おう」 プチテーマ:「実は私の活動、SDG s の〇〇でした!!」 ・参加者自己紹介 ・交流タイム①: 日頃の活動が SDG s にも貢献しているかも?! ・交流タイム②: たくさん話そう、つながろう 参加者同士がそれぞれの活動を共有することで、自身の新たな魅力を発見し、さらなるパワーアップへつながりました。3 年ぶりの対面会合で、オンラインとは違う交流を楽しみました。
--	--

＜3＞ 西区民まつりへの参加

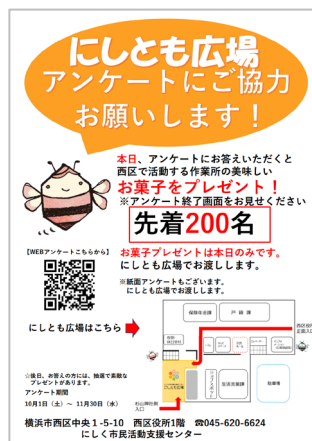
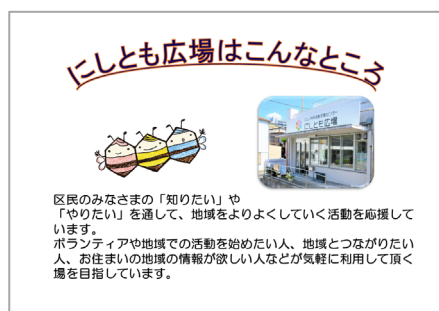
- ・再開された西区民まつり（2022 年 10/3～12/23）に参加し、地域人材ボランティアや登録団体の活動の発表や区民の方々と交流できる場をつくり、当センターをさらに知っていただく機会をつくりました。

ブース出店（10/11（火））

- ・にしとも広場ではアンケートを実施し、西区内の作業所で制作されているお菓子を景品としました。

期間中広報資料配布、139 セット

- ・さらに抽選当選者には、後日、西区内の障害者就労施設で制作されているレトルト食品をプレゼントし、事業所の周知にも役立てることができました。



4. 地域支援事業

「何かをしたい」「何ができるだろうか」「活動したいがどうしたらよいかわからない」というような思いをもって来館する方々、また、地区社協や自治会町内会等で活動する方々、様々な方々の思いを汲み、活動につなげるきっかけづくりをし、地域での活躍を促しました。

特に今期の地域づくり大学校は、地域の情報をより多く学び地域を近く感じてもらえるよう、地域の方や施設に協力頂く盛沢山のプログラムとしました。全 4 回講座でしたが、全員が修了することができ、一人ひとりが自身の成果をつ

ることができました。また協力先を多くすることで、地域大の意味合いのや修了生との関係づくりを促す効果もありました。

1) 地域づくりの人材を養成する講座「西区地域づくり大学校（以下、西区地域大）第 11 期」の開催

- ・ 本講座は、①講座後も続く仲間づくり、②少人数制の連続講座、③講座終了後も“にしとも広場”が継続的に受講生を応援すること、を主軸に全 4 回を区政推進課と協働で開催しました。
- ・ 住んでいる身近な地域に目を向けている方が増えていることを背景に、テーマは「～住んでいるまちを知って、仲間と出会う～地域のつながりづくり」としました。
- ・ 定員 15 名のところ応募者 25 名で抽選となりました。結果、定員を 3 名拡大し 18 名が受講しました。
(内訳：20 代 3 名、30 代 3 名、40 代 5 名、50 代 1 名、60 代 5 名)
- ・ にしとも広場や他施設を利用したイベントとして 3 件開催されました。また、地域大修了生の助成金利用も 1 件あり、地域での活動者としてスタートを切った修了生もいます。
- ・ 卒業後のフォローアップについては、区役所と連携し、修了生対象の助成金の活用も視野に、伴走支援、コーディネートを行っていきます。

	日時・場所	テーマ・内容
1	11/12 (土) 9:30 – 12:30 受講者数：16 名	『テーマ：にしきを知ろう』 ・オープニング（開講の挨拶：菊地健次（西区役所区長）、受講生自己紹介） ・講義 1：「にしきをしよう」 西区役所区政推進課 課長 鈴木慶 ・講義 2：「地域の仕組み」 西区社会福祉協議会 会長 米岡美智枝さん ・先輩たちと話そう（7 期、9 期修了生）
2	11/26 (土) 10:00 – 16:00 受講者数：15 名	『聞いて、見て、地域を知ろう』 ・活動者の事例を聞く ・地域の活動事例を知る（2 グループに分かれ以下を見学ツアー） 生活創造空間にし、生活支援センター西、わいわい広場、藤棚地域ケアプラザ 藤棚地区センター、藤棚デパートメント、藤棚らいぶステーション
3	12/11 (土) 13:30 – 16:00 受講者数：15 名	『プランの実行に向けて準備しよう』 ・講義「仲間とはじめよう！ゼロから場をつくるには？」 NPO 法人れんげ舎 代表理事 長田 英史さん ・グループワーク：「チャレンジプランを磨こう」
4	2/4(土) 9:30 – 12:30 受講者数：16 名	『テーマ：プランの振り返り&これからのつながりづくり』 ・チャレンジプラン報告会 ・修了式（修了者 18 名） ★来賓 10 名

<アンケートより>

平均点 85 点（100 点満点中）（16/18 名）

- ・ 自分の思いを形にするまでのスピード感が上がった。地域との距離がぐっと縮まった。
- ・ お試しイベントのサポートが手厚かった。イベントのハードルが下がったので、今後は自分で開催できそう。
- ・ 活動の場所、サポートがあることがわかり安心できた。

- ・ 毎回充実の講義だった。想像以上の情報量に大満足。
- ・ 地域の様々な方と楽しく交流する場が提供されていてよかった。
- ・ もう少し回数が多いと参加者との交流がもっと深まった気がする。

2) 地域活動・市民活動応援

・「災害から復旧・復興時のつながり」について考える場

「災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ」（通称 みんな）と連携し、西区で災害が起きた時、活動団体が自身の強みや日頃のつながりをどのように生かしていくか、地域の中で日頃から取り組める防災は何か、有事におけるつながりなどについて学び合う機会を設けました。

・「好きなもん広場」

好きなものや興味のあること、市民活動・地域活動に関するテーマを毎回設定し、参加者の関心や人とのつながりが広がる対話の機会としました。少人数で制約なく気軽に話ができる場であることから、終了後に連絡先を交換するなど、交流が続く場面も見られました。

日程	プログラム	参加人数
4/8	映画を語ろう	6名
5/13	上品、華やかにスカーフアレンジ	6名
6/11	西区かるたをつくろう	7名
7/8	江戸時代を語ろう	5名
8/5	韓流〇〇が好き	4名
9/9	&COCOへ行ってみよう	4名



・外国につながる子ども対象「にしともるーむ」を定期開催しました。

2018年度に「日本語・学習支援ボランティア養成講座」を開催、同年9月より学習支援教室「にしともるーむ」を実施しています。

(毎週火曜日 16:00～17:00)

様々な国につながる子ども8名程度の小学生が通い、ボランティアの方とマンツーマンで、宿題など自分に必要な勉強をしました。

2022/4～2023/3 実施回数 37回



3) 意見交換会の実施

- ・ 毎年、自治会町内会、センター利用者、地域人材ボランティア、区内関連施設などの方々にお集りいただき、当センターの事業や役割について、また地域にある課題やニーズについてなど、意見交換する場です。頂戴したご意見は、センター運営や事業展開の参考としています。

日時・場所	参加者
3/23（木） 15:00－16:30 @にしとも広場 参加者：5名	西区第五地区自治会連合会 会長 平野 周二さん 西区社会福祉協議会 会長 米岡 美智枝さん 西区在宅介護者のつどいあけぼの会 代表 竹下 淳子さん にしく名・達の会 会長 金子 敏郎さん 西区子育て支援拠点 スマイル・ポート 鳴神 美穂子さん

<ご意見より>

- ・ 西区地域づくり大学校の修了生が、もっと地域で活動するようになってほしい。地区社協とどう連携するか一緒に考えたい。
- ・ 今後、コロナ規制がなくなっていくだろうし、以前のようににぎわいをとり戻したい。活動者の応援をしてほしい。
- ・ 鉄道 150 周年のように、西区の歴史を追った事業を、区役所と連携してできたらよい。
- ・ にしとも広場のやわらかい雰囲気を保ってもらって、一般の方がもっと来られるようになるとうい。
- ・ 自施設だと対象が未就学児に限られてしまうが、にしとも広場で実施すると小学生の親もいて幅が広がる。今後とも連携していきたい。

5. 区・区民利用施設等との連携事業

今年度も、施設が一同に集まる貴重な場として、施設連携会議を開催しました。年に 1 回ですが、毎回のテーマを楽しみに、情報収集の場として期待されています。他施設ともイベント等の共催が定着してきました。当センターが誰もが気軽に立ち寄れるフラットな場であることを活用した展開がされています。

1) 区民利用施設等との連携会議の実施（年 1 回）

- ・ 地区センターやコミュニティハウスなど、情報共有の機会を持ちにくい施設もあるため、西区全施設が集う本会議は、貴重な情報提供・共有の場となっています。今年度は、被災以降の市民生活・市民活動に対し、区民利用施設としての役割を考え、それぞれの施設の強みや特徴を生かした支援の在り方を考える機会としました。

日時・場所	内容
2/13（月） 15:00－17:00 @にしとも広場 参加：10 施設 11 名 関係課 1 名	災害時～復興期の困りごと、支え合い、そしてつながり － 施設としてできること、連携を考えよう－ ・近況報告 ・「西区で大きな災害がおきたら」 講義&意見交換 ・「復旧・復興期のつながり」 講義 & 意見交換

<アンケートより>

- ・ 防災訓練はしているものの、その先の対応、長いレンジでの我々の役割を考えていなかったもので、まずはスタッフで共有して意見交換したい。
- ・ 災害は誰にも関係する重大なテーマで、施設の在り方を考えさせられた。
- ・ 漠然とした不安があるが、話し合いをしていく必要があるとわかった。地域の方とのつながりの大切さを感じた。
- ・ 災害テーマは引き続き取り上げてほしい。
- ・ 今日の研修内容を区役所とも共有して、まずは、災害発生時・以降の漠然とした不安を共有したい。

2) センター事業における区内施設等との連携

●生活支援センター西 との連携

障害を持つ方が、地域で自分らしく暮らすために、今、西区で様々な取組みを始めています。日頃から障害を持つ方を支援されている方々にもご参加いただき、取組み事例やご本人のお話しを通して、地域で何ができるか一緒に考えました。

日時・場所	内容
3/11 (土) 13:00～15:00 @西区役所 3AB 会議室 参加者：29 名	西区の中で自分らしく地域で暮らす 主催：にし市民活動支援センター “にしとも広場” 共催：生活支援センター西 ガッツ・ビート西 横浜障がい相談システムねくさす 第一戸部荘

<アンケートより>

- ・ 相談できるところが色々あることがわかった。
- ・ (ご本人が) 登壇することは勇気がいることと思う。貴重なお話し、貴重な時間だった。
- ・ 当事者の参加で生の声がきけてよかった。
- ・ 各事業所まんべんなく話を聞くことができ、とても贅沢な機会だった。
- ・ 体験を通して実際に生活するというイメージがもてた。

※当日は、生活支援センター西の利用者の方も来られていました。登壇した仲間の話を聞き、自分もできる、やってみようという前向きな気持ちになったそうです。(支援者より)

●西区子育て支援拠点スマイル・ポートとの連携

コロナ禍で中止していた、「みんなで！みちあそび」を再開しました。西区地域子育て支援拠点スマイル・ポートとの共催、よこはまユース、浅間みはらし台プレイパークの協力を得、また、学校地域コーディネーターの協力で西前小学校 6 年生がボランティアとして参加しました。当日はあいにくの雨となりましたが、開催時間前から参加の列ができ、親子でみち遊びを楽しむ機会となりました。

日時・場所	内容
8/28 (日) 第 1 回 10:00～10:30 第 2 回 10:30～11:00 参加者：小学生ボランティア 6 名 一般ボランティア 2 名 合計 16 名	にしとも広場ミーティングスペース：新聞紙遊びや折紙遊び 建物前のスペース：チョーク遊びや水遊び



3) 地域振興課が実施する生涯学習・市民活動支援講座 運営支援

- ・ 地域振興課主催「ICT サポーター養成講座」
昨年度の「スマホサポーター養成講座」につづく講座として、広報、周知など連携して進めました。
- ・ 養成講座の活動支援の場づくりなど、連携して進めています。

4) 中央図書館との連携【NEW】

- ・ 「にしとも広場 こぼこ図書」を設置、年4回、テーマ毎に司書に選定いただいた本を一ヶ月間ずつ閲覧いただけるようにしました。
外国に興味のある子供たちのために、多国語の本も用意しました。
併せてテーマに沿ったイベントを行うことで、関連図書への興味につなげ、地域の方の学びや楽しみの機会をつくりました。
- ・ 「ポップ展示」西区内の中学生が作成したポップを展示し、活動を周知しました。
展示期間：2/14（火）～2/24（金）

開催月	テーマ
5月	子どもむけ
9月	認知症
12月	季節行事
3月	歴史



6. 施設環境への取り組み

丁寧な対応や、適切な情報提供と共に温かな場づくりを心掛け、「とりあえずにしとも広場に行ってみよう・聞いてみよう」、そう感じていただけるような、つながり・活動を育む場をつくりました。

1) 誰もが立ち寄りたくなる場づくり

- ・ 誰もが気軽に参加できるよう、講座・イベントは基本、託児付きとして開催しました。
- ・ 講座・イベント等では、参加者同士が知り合える、何となく仲良くなれるきっかけ（場）をつくりました。
- ・ 地域人材ボランティアバンクの登録者の発表の場としても活用しました。

2) 居心地の良い環境づくり

- ・ 引き続きキッズコーナーを設け、親子も安心して立ち寄れる空間をつくりました。
- ・ 配架しているチラシの中から、おススメ情報をピックアップして、入り口の掲示板に貼り出しました。
- ・ 壁面にその月のイベントカレンダーを設置し、いつ何があるのかを明示することで、参加を促しました。
- ・ センターに立ち寄られた方に、センターを利用しての活動を積極的に呼び掛けました。

3) 施設内安全への配慮

- ・ チラシ配架・回収時に掲示物をチェックし、画鋲が取れていないか、などを確認しました。また月に2回、日を定めて設備や機材を点検し、安心して利用できる環境整備に努めました。
- ・ 手指消毒スプレーやノロウイルス対応セットを設置し、感染拡大を防ぎました。

7. 職員配置体制・資質向上への取り組み

今年度は職員の退職や入職がありましたが、来館者の対応等をスタッフ間で学び共有するなど、センターの雰囲気づくりや居心地のよさにつながるよう努めました。研修については、今年度も常勤・非常勤ともに、内外の研修に参加し、スキルアップと新しい視点を取り入れるよう努めました。

1) 現場訪問

- ・ 市民活動や地域活動の現場に出向く機会を大切に考えていますが、残念ながら、コロナ禍の影響で現場に赴く機会は少ない状態でした。

2) 職員研修

以下について、職員全員が年 1 回以上参加しました。

- ・ 個人情報保護に関する研修に参加し、さらに、日々の業務の中における情報漏えいを起こさない仕組みを全員会議で点検しました。
- ・ 人権に関する研修（講師：法務局）を、受講しました。
- ・ 不審者が来た場合の対応方法・防犯を学ぶ研修（講師：戸部警察署）を実施しました。
- ・ 防災・災害時の市民活動支援センターが担う役割について、「災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ」（通称 みんかな）と共に考える機会をもち、町内会・自治会や関連施設等との連携の仕方を把握しました。
- ・ 「傾聴」と「ダイアログ」の実践について、相手が主役のコミュニケーションスキルの基礎を学びました。
- ・ 利用者がいる場合の地震や火災などの緊急時を想定した避難訓練に参加しました。
- ・ 感染予防にも配慮した AED や心肺蘇生法など救急救命研修を、全員が受講しました。
- ・ 発達障害について、関わりの悩みや工夫について一緒に考えました。

3) 他区の区版支援センターとの情報交換および交流、研修への参加

- ・ 横浜市が実施する研修・会議に参加し、他地域の先進事例を学びあい、また、積極的に情報交換を行いました。

4) 外部研修への参加

- ・ 各職員が、外部研修に参加するなど、スキルアップを図る機会を積極的に設けていきました。

参加研修（抜粋）

開催日	研修名	主催等
9/28(水)	発達障害の理解	よこはま東部ユースプラザ
10/7(金)～	にしく魅力発見・発信講座(～2023/1/23 全 5 講)	西区地域振興課
10/24(月)	コロナ禍から考える今後の地域活動について	にこまち講座
11/17(木)	西区の地域福祉保健計画(にこまちプラン)について	西区社会福祉協議会

2/10（金）	西区地域力アップ職員研修	西区区政推進課
2/17（金）	西区のワンストップ相談と連携を考えよう	ガッツ・びーと西

5) 業務内容の質の向上

- ・ 職員全員の会議を月に2回実施し、相談対応や事業実施内容の共有・振返りをし、業務内容の質の向上に努めました。
- ・ 日々の業務について常に見直しを行い、区民の方が利用しやすい環境づくりや質の向上に努めました。
- ・ すべての事業について実施内容・結果等を一覧にまとめ、成果や課題に対しての意識向上を図るとともに、職員間で確認や共有が速やかにできるようにしました。

8. 西区役所との協働

当センターが、「区民のつながりを育み、力を活かしかう地域協働の総合拠点」となるべく、地域振興課を中心とした区役所との協働をすすめました。

1) 日常的な「報・連・相」や定例会議でお互いの成果や課題を丁寧に共有

- ・ 定例会議を月1回実施するほか、日常的にお互いの事業やそれに関わる情報を共有しました。

2) 協働契約書を締結し、センターの事業目的の共有と双方の強みを活かした運営の実現

- ・ 区役所と民間である当法人が協働して事業運営に取り組むことにより、双方の強みを生かし、相乗効果が得られるような運営を目指しました。

3) 西区役所関係課や他機関との連携による事業の実施

- ・ 事業の企画や実施において地域振興課とセンターのみならず、内容に応じて、関係課や他の支援機関と連携・協働し、さらに充実した事業の実現につなげました。

4) センター運営に関する協働のふりかえりの実施

- ・ 年度終了後に、「協働に関する相互検証シート」をお互いに作成し、当センターの運営を協働で取り組んだことに関してふりかえりを行いました。

以上